



平成 26 年 5 月 12 日

各 位

東 京 都 千 代 田 区 麴 町 三 丁 目 2 番 4 号  
会 社 名 株 式 会 社 ス リ ー ・ デ ィ ー ・ マ ト リ ッ ク ス  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 高 村 健 太 郎  
(コード番号：7777)  
問 合 せ 先 取 締 役 新 井 友 行  
電 話 番 号 03 (3511)3440

### 超短鎖自己組織化ペプチド技術に関するライセンス契約締結のお知らせ

当社グループは自己組織化ペプチド技術による医療製品の開発をグローバルに展開すべく事業を進めております。この度、シンガポール連結子会社：3-D Matrix Asia Pte. Ltd. (以下「3DMA」) は、シンガポール科学技術研究庁(以下「A\*STAR」)のライセンス機関である Exploit Technologies PTE LTD (本社：30, Biopolis Street, #09-02, Matrix, Singapore、以下「ETPL」) との間で、超短鎖自己組織化ペプチド技術に関するグローバルライセンス契約を締結いたしましたのでお知らせいたします。

本契約は、A\*STAR の国立研究機関である Institute of Bioengineering and Nanotechnology (以下「IBN」) の主任研究員 Dr. Charlotte Hauser が発明した超短鎖自己組織化ペプチド技術に関し、ライセンサーである ETPL より、3DMA がライセンスを受けるものです。本技術により当社グループの特許ポートフォリオは一層の拡充がなされ、研究開発時におけるペプチド選択の幅が広がるなど製品化に向けた新たな可能性が期待されます。また開発領域としては再生医療領域およびドラッグ・デリバリー・システム領域における活用を計画しております。

本技術は、特定の 6 残基のペプチドが自己集合することによって超分子構造のらせん状ファイバーを形成する性質を利用したものであり、本ペプチドは疎水性の尾部と親水性の頭部を持ち、 $\alpha$ ヘリックス構造を取った中間体が集合して $\beta$ ターン構造に変化することにより、機械的強度や熱安定性の高いハイドロゲルを形成します。

また当社グループの PuraMatrix を代表とする $\beta$ シート型ペプチドハイドロゲルと同様に生体適合性が高く、生体に注入可能であるため、細胞・薬剤の担体として利用可能であります。そのため、骨の再生における細胞足場や徐放担体としての応用が期待され、超短鎖であるためペプチド合成コストの大幅な低減も期待されます。

当社グループは、今後も特許ポートフォリオの拡充を行い、再生医療領域や DDS 領域での研究開発および有効な医療製品の開発を進め企業価値の拡大を図ってまいります。

なお、現段階においては、本件による本年度以降の業績予想への影響はありません。

### Institute of Bioengineering and Nanotechnology (IBN) について

2003年に設立されたIBNは、世界で初のバイオエンジニアリング及びナノテクノロジーに特化した研究機関です。IBNは、科学、工学、医学といった多くの専門分野にわたる研究を通じて、ヘルスケア及びクオリティ・オブ・ライフの向上に寄与する事をミッションとしています。IBNの研究活動は、以下のエリアにフォーカスされています：ナノ医学、細胞及び組織工学、バイオ機器及び診断機器、グリーンケミストリー及びエネルギー。その他詳細につきましては、[www.ibn.a-star.edu.sg](http://www.ibn.a-star.edu.sg)をご参照下さい。

以 上